

今後の県立高校活性化の基本となる考え方について

1 これからの県立高等学校活性化の基本的な考え方について

第1回教育改革推進会議で各委員からいただいたご意見をふまえ、これからの県立高校活性化の柱となる「基本的な考え方」を以下のとおり整理しました。

今後、次期計画骨子案の策定に向け、「基本的な考え方」に沿った具体的な取組について検討を進めていきたいと考えています。

(1) 新しい時代を生き抜いていく力の育成

- ア) 人生100年時代の中で、自立した学習者として学び続けることのできる力の育成
- イ) さまざまな変化に主体的に向きあいながら、新たなことを学び、挑戦する意欲の育成
- ウ) 自らの生き方や働き方について考えを深め、学ぶことと自己の将来とのつながりを見出していくことのできる力の育成
- エ) 多様な選択肢の中から進路を決定する能力や人間関係を築く力の育成
- オ) 諸課題の解決に向けて自分の意見や考えを伝えあい、他者と協働してより良い社会を形成しようとする力の育成

(2) 新たな時代に対応するために必要な力を育むための学びの推進

- ア) 全ての生徒における主体的・対話的で深い学びにつながる授業改善
- イ) 生徒一人ひとりの状況に応じた指導と個々の生徒に応じた学習活動の提供などの個別最適な学び
- ウ) 文系・理系を問わず、教科横断的な視点で物事をとらえ、実社会での課題解決に向けて創造的思考力や論理的思考を育む学び
- エ) 地域の方々や職業人など多様な人々と関わりながら、地域の特色や産業を題材に地域の魅力や課題を知り、自分たちに何ができるのかを主体的に考えて行動する課題解決型の学び
- オ) 異なる文化に対する理解や郷土への愛着、語学力やコミュニケーション能力などを高め、将来、世界にあっても地域にあっても活躍できる力の育成に向けた学び
- カ) ICTをはじめとした先端技術を手段として積極的に活用しながら実社会の課題等の解決をめざし、人間ならではの考え方で新たな価値を創造できる力の育成に向けた学び

(3) 多様な生徒が学べる環境の整備

義務教育段階の学び直しが必要な生徒、日本語指導が必要な生徒、特別な支援を必要とする生徒、不登校の状況にある生徒、経済的困難な状況にある生徒等の個別の学習ニーズに応え、将来のキャリアや職業等に希望を持ち、安心して学びを続けることのできる環境の整備

(4) 少子化の中での学校や学びの特色化・魅力化の推進

- ア) 生徒の多様な進路志望に対応するとともに、これからの時代に求められる力を備えた人材を育成できる普通科、専門学科、総合学科、定時制、通信制における学び
- イ) 小規模高校の総括的な検証をふまえ、全ての県立高校に通う生徒に部活動も含めた教育活動の中で社会性・人間性を育むとともに、生徒の学習ニーズに対応した幅広い科目の開設や専門性が維持できる学校の規模やあり方
- ウ) 生徒の学びのニーズを基本としながら、通学環境、地域における高校の役割をふまえた学校の配置

(5) 特色・魅力ある教育の実現に向けた学校経営と教職員の資質向上

- ア) 多様な主体との連携・協働など、学校内外の教育資源を最大限に活用した教育の推進
- イ) 校長のリーダーシップのもと、学校内外の人材との連携と分担を通して様々な課題に対応できる学校マネジメントの推進
- ウ) 各学校において育成をめざす資質・能力等に係る教育活動の指針の明確化とカリキュラム・マネジメントを通じた教育活動の改善
- エ) 生徒の可能性を引き出すための個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた教職員の資質の向上
- オ) 中学生や保護者、中学校教員をはじめ広く県民の皆さんに向けた各学校における特色・魅力ある教育の情報発信

2 県立高校の規模と配置について

(1) 平成元年から令和3年の状況

県内の中学校卒業生数は、平成元年から令和3年の間に29,994人から15,777人と約47.4%の減となっています。同様の期間における全日制課程を置く県立高校の設置数は、62校から54校へ8校の減少となっており、学級数は485学級から271学級と約44.1%の減少、1校あたりの平均学級数は7.82学級から5.11学級に減少しています。

(参考) 中学卒業生数/全日制県立高校設置数/全日制県立高校学級数(資料4)

(2) 現行計画における規模と配置の考え方と小規模校の取組

① 基本的な考え方

- 高等学校においては、生徒が集団の中で多様な考えに触れ切磋琢磨することで、思考力や表現力、判断力、問題解決能力などを育み、社会性や規範意識を身に付けることが重要である。
- 生徒の希望等に応じた多様な選択科目の開設が求められており、専門性などでバランスの取れた教員配置を行うためには一定の教員数が必要である。
- 高等学校の配置については、学校の規模だけでなく、地域の担い手育成など地方創生の取組が進められていること、生徒の通学など教育機会の保障への配慮等をふまえる必要がある。
- 高等学校の規模や配置、学科のあり方については、地域の状況や学校の果たす役割、学校・学科の特色等に配慮するとともに、地域活性化協議会等の場で地域の方々の声を聴きながら総合的に判断する。
- 高校の活性化については、生徒はもとより、県民の方々が学校の特色や果たす役割等に積極的な意義を感じ、「行きたい学校」、「誇りに思う学校」となることを目指し、学校、地域、行政など全ての関係者が当事者意識を持って行動していく必要がある。

② 望ましい学校規模

- 高等学校は社会性の育成、幅広い教科・科目の開設、学校行事や部活動の充実のために一定の規模が必要となること、多くの県で1学年4学級から8学級を適正規模としている中で本県の地理的な特徴や地域により状況が異なることを考慮して、望ましい学校規模を1学年3～8学級としています。

③ 1学年2学級以下の学校（小規模校）における活性化の取組

1学年2学級以下の高等学校（3学級規模の学校もこれに準じる）においては、学校ごとに市町関係者や地元産業界、小中学校および高等学校の保護者や教員等で構成する協議会を設置し、学校は「地域でどのような役割を担い地域に貢献するか」という視点で、地域や産業界は「子どもたちのために学校とともに取り組む」という視点で、地域の状況、学校・学科の特色等をふまえた活性化に取り組んできました。

現行計画の最終年度である令和3年度においては、活性化の取組や生徒の進路実現の状況、入学者の状況など、その活動と成果の総括的な検証を行い、その後のあり方を検討することとしています。

（詳細は資料5「小規模校における活性化の取組」）

(3) 現行計画期間における県立高校の変化

① 全国の全日制第1学年学級数別の学級規模の状況（資料6）

平成28年から令和3年の5年間における本県の全日制高校1校あたりの平均学級数を見ると、全国平均では5.61から5.23へ減少する中、本県においては5.94から5.11へ減少しています。

（参考）県立高等学校(全日制)における学級数の状況(資料7)

② 学科・コースの新設・改編

生徒数の減少や地域のニーズ等、高校教育を取り巻く社会情勢の変化に対応するため、以下の学科・コース等の新設、改編を行いました。

	高校	改編前	改編後
平成29年度	稲生高校	普通科モータースポーツ類型	普通科自動車工業類型
平成30年度	四日市工業高校	(新設)	ものづくり創造専攻科
平成31年度	伊賀白鳳高校	工芸デザイン科	建築デザイン科
	明野高校	流通科学科募集停止	農業に関する学習は生産科学科と食品科学科の教育内容に引継ぎ
令和2年度	志摩高校	普通科国際コース募集停止	国際コースの学びは普通科の類型に引継ぎ
	稲生高校	普通科情報コース募集停止	情報コースの学びは普通科の類型に引継ぎ
令和3年度	四日市農芸高校	生産科学科 食品科学科 環境造園科 園芸科学科	農業科学科 食品科学科 環境造園科

③ 普通科・普通科系専門学科

- 平成29年度に9学級規模であった3校は令和3年度にはいずれも8学級となり望ましい学校規模の上限を超える学校はなくなるとともに、8学級規模であった9校のうち6校が7学級、1校が6学級となりました。
- 望ましい学校規模の下限を下回る学校は、平成29年度の5校から令和3年度は8校（9校舎）となりました。

④ 職業系専門学科

○これまで、募集定員の策定においては、職業系専門学科における小学科（工業学科の機械科、電気科など）の多様な学びを維持する観点から、複数の学級規模のある小学科を減じてきました。その結果、志願者の多い機械科を含め、多くの小学科が1学級規模となりました。こうした中、地域で唯一の職業系専門学科を設置する高校や1学年3学級以下の高校のうち職業系専門学科を設置する学校においては、定員を減じる中においても専門教育を保障し、生徒が多様な選択肢の中から進学先を選ぶことができるよう、一学級35人もしくは30人の学級編成を行いました。

⑤ 総合学科

○多岐にわたる進路希望を有する生徒が普通科系教科や専門系教科の中から主体的に学習内容を選択することができる総合学科は、生徒における幅広い選択を可能とする教育課程の編成が必要となります。

○7学級規模・5学級規模の総合学科における普通科系教科の科目数は平均67科目、専門系教科の科目数は平均59科目、2学級規模・1学級規模の総合学科における普通科系教科の科目数は平均37科目、専門系教科の科目数は平均25科目となっています。

⑥ 特別活動等

○学校の規模が小さくなることに伴い、学校行事等の特別活動や部活動において、生徒が集団の中で多様な考えに触れ切磋琢磨することで、思考力や表現力、判断力、問題解決能力などを育み、社会性や規範意識を身に付ける機会を維持することが困難となります。

○学級数別の部活動開設数は、6学級規模の学校では平均28.1部（運動部13.9部、文化部14.2部）、5学級規模の学校では平均22.0部（運動部12.4部、文化部9.6部）となっています。

